

青空通信

NPO 法人 ウェルコミュニティ飛驒 青空作業所
高山市山口町 1297-1 0577-35-1559
<https://www.welcom-aozora.com/>
令和6年 10月 21日発行 第62号



理事長挨拶



井端 隆博

日頃よりウェルコミュニティ飛驒 青空作業所の活動に対し、ご理解とご支援を賜り深く感謝申し上げます。9月は殊のほか暑さ厳しい日が続きましたが、ここに来てようやく朝夕は過ごしやすくなってきました。皆さま、お元気でお過ごしでしょうか。

先月発生した石川県能登半島を中心とした豪雨災害では、多くの方が亡くなられ、いまだ連絡が取れず安否のわからない方もおられる状況です。被災された地域の皆様にとりましては、今年1月1日の能登半島地震からの復旧に向け、進まれているなかでこの様な大変な状況となり、ご心痛は察するに余りあります。改めて、心よりお見舞いを申し上げますとともに、1日も早く元の生活に戻られることを祈るばかりであります。

ウェルコミュニティ飛驒においては、9月に県の実地指導を受けた際には、災害や感染症への備えをということでBCP(事業継続計画)についての確認に時間が割かれました。計画として問題ないとの返答をいただきましたが、災害時の対応に関しては利用いただく皆様との連絡手段、備蓄品の量や保管場所、感染症対策に関しては換気の再徹底、拡大防止の対応などまだまだ改善の余地があると思います。より良い計画ができるよう継続して改善に取り組んでまいります。

さて、今年はコロナ禍で機会がなくなっていたイベントやバザーに参加できるようになってまいりました。利用いただく皆様がこころを込めて作成された製品を販売できること、地域の皆様に法人の活動を知っていただけること大変に嬉しく思います。会場で見かけられた際は是非とも御声掛けいただければ幸いです。



就労移行支援事業

座学の様子

今回は「**お願いの仕方・断り方**」というテーマで話し合いました。日常生活の中で人をお願いすること、助けてもらいたいことがあります。仕事では自分一人ではできないこともあります。そこで今回は実際仕事をしている場面で手伝ってほしい時、どのように相手に伝えたらよいか、どのような言い方で伝えたらよいか考えてみました。

☆こんな時、あなたならどうしますか？

スタッフが実際に A さん・B さんになりきってやってみました。



スタッフ：「午後〇〇の作業をします。A さんは〇時まで〇〇、B さんは〇時まで〇〇とそのあと別の作業をお願いします。どちらも急ぎの作業です。」

A さん：「B さん、私一人ではできないから一緒にやりましょう。」

B さん：「いや・・・できないと思います。」

A さん：「そんなこと言わないでくださいよ！私一人ではできませんもん！」

B さん：「私も無理です。」

A さん：「大丈夫ですよ！B さん仕事早いですが！手伝ってください！」

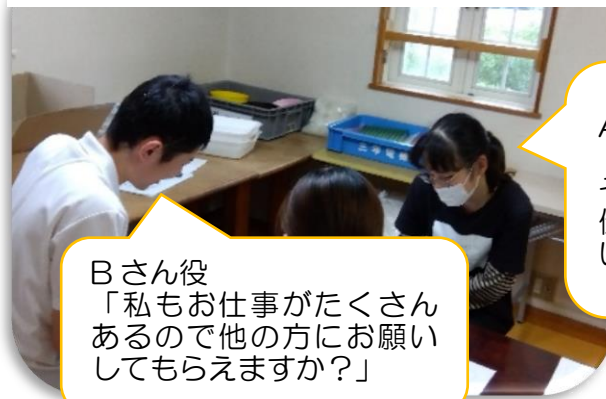
B さん：「私だってできません(怒)集中したいから話しかけないでください！」

A さん、B さんそれぞれが悪かったかな～。どのように言えばお互いの作業がスムーズに進むかな～。



そして最後にペアになって、ロールプレイしました

それぞれの良くなかったところ、その時の気持ちなど書き込みました。
私ならこう言うかな～・・・
これなら B さん怒らないかな・・・



B さん役
「私もお仕事がたくさんあるので他の方をお願いしてもらえますか？」

A さん役
「〇時までには出来そうにないので手伝っていただけないでしょうか？」

他には「自分で判断せずに、まず上司に相談する」、「自分の仕事が終わってから手伝うという風でもいいですか？」などの意見が出ました。その後、実際の仕事の場面で実践している訓練生もいました。

就労継続支援 B 型事業

～今回も行事が盛りだくさん！大好評の「買い物の会」には多くの方が参加しました！～

【7月・9月：買い物の会】



セルフレジ・タッチパネルでの清算もバッチリ！



お目当ての商品を購入できました！

【8月：夏祭り】

オセロ



かき氷



お菓子釣り



カードゲーム



【10月：魚つり】

赤保木公園で行われた魚つり大会に参加しました。

釣った魚をその場で塩焼きにしてもらい、美味しくいただきました！



大物賞 第2位！

大物賞 第3位！

今後のバザー出店予定

- 10月26日（土）福祉大会・吉城山ゆりバザー
- 11月 5日（火）福祉のお店〈飛騨総合庁舎〉
- 11月26日（火）福祉のお店〈高山市役所〉




車田保存会様から依頼を受け、マスコットキャラクターの刺子バッグを作りました！

私が事務職として本部で働き始めて一番苦労したのが「決裁」です。本部では殆どの案件に予算が絡んでおり、必ず関係部署の決裁を受けなければなりません。自分が起案したものは、関係部署の職員一人ひとりへの説明と捺印が必要でした。複数の係員、係長、課長、部長、理事、そしてまた違う部の係員に一から説明していきます。最後は理事長のサイン。多いときは数十人にも及びました。特に経理部は大変です。事前の説明をしても何度も再説明を求められ、突き返されることもあります。一つの案件を通すのに1か月かかることもありました。この間にストレスをため込み、悩む日々でした。

今、当時のことを思い出すと辛いことが多かったようにも思いますが、組織での仕事のやり方を学んだ貴重な時間であったことは確かです。組織で仕事をするうえで大切なことは、あらゆることにも対応できる事前の準備と関係者との調整力、自分の伝えたいことを的確に相手に伝えるコミュニケーション力。そして最後は自分の仕事に対する責任感です。自信がないとか苦手だとか言っていては、まったく仕事が進まないことを身をもって学びました。

【第12回終わり】



編集後記

私の母親は認知症です。母親がデイサービスやショートステイといった福祉サービスを利用するようになり思うことは、家族にはできない支援をしていただいているということです。専門的知識やスキルはもちろんのこと、取り巻く環境など様々な要因が働き支援の効果が出ていると思います。福祉サービスを利用するようになり、明らかに母親の QOL は高まっています。

家族の負担を軽減するため、福祉サービスを利用するといった側面があることは理解できます。しかし家族と福祉サービスの役割は異なります。家族が福祉サービスに依存するのではなく、双方が補完する関係性において当事者を支援していく事が大切であると思います。

(柏木)